

1. 研究例会

第55回 『ディスレクシアと外国語教育』

館野 智恵子氏

2007 年 4 月

第56回 『コミュニケーションのパラダムシフト - 人の能力を引き出すコミュニケーション- 』

岸 英光氏（岸事務所代表）

2007年6月

2. 教員研究活動報告(2007 年 4 月～2008 年 3 月)

日比谷潤子

その他の出版物

「多文化モザイク社会カナダの言語権」 『月刊言語』 2008 年 2 月号

その他の発表・講演

"The velar nasal in Tokyo Japanese:Methodological Issues", University of Essex,
November 2007

広瀬正宜

研究発表

「帰国生のための日本語教育—漢字教育から情報発信能力の養成へ」（小澤伊久美・鈴木庸子
との共同発表—口頭発表とポスター発表）日本語教育方法研究会、於京都外国語大学、2007
年 9 月 23 日。（予稿集 6-7 頁）

その他：

（学内）

2007 年 4 月～現在 日本語教育研究センター長

2007 年 4 月～現在 夏期日本語講座（サマーコース）主任

2007 年 4 月～現在 教授会合同議長

（学外）

1992 年 4 月～現在 日本語教育振興協会審査委員

1999 年 10 月～2007 年 9 月 東京都三鷹市教育委員（2005～2007 委員長）

2000 年～現在 国際交流基金・日本国際教育協会「日本語能力試験実施委員会」委員

2005 年～現在 （財）ラボ国際交流センター 日本語教育研修所日本語教師養成講座運営委員長

2007 年 6 月～現在 日本語教育学会常任理事・副会長

2007 年 6 月～現在 日本語教育学会学会誌委員会（2007 年 9 月～現在 委員長）

根津 真知子

研究論文

「リベラル教育の中での「日本語教員養成プログラム」、
『大学日本語教員養成課程研究協議会 論集第4号』、2008年3月

研究発表

「リベラル教育の中での「日本語教員養成プログラム」の目標」、
第31回 大学日本語教員養成課程研究協議会大会 シンポジウム、2007年10月

研究助成金

2007年度ICU研究助成基金補助金

佐藤 豊

報告書

2008、「『サービス・ラーニング』の展開」『大学時報』No. 318, pp. 32-37,
日本私立大学連盟

その他の出版物

2007、「特集『日本語のバリエーションと日本語教育』について」『日本語教育』134号、
pp. 3-5、共著

口頭発表

1. International Service Learning and Multi-Cultural Symbiosis:
The Silliman-International Christian University S-L Model Program, UBCHEA 主催
1st Asia-Pacific Regional Conference on Service-Learning, Cross-Cultural
Service-Learning Experience in Asia-Pacific Region: An Evolving Integration
of Theory and Practice において発表、2007年6月1日、香港、嶺南大学
2. 「サービス・ラーニングのアジアへの広がり」、「大学教育における海外体験学習」
第6回研究大会において発表、2007年9月29日、沖縄国際大学

中村 一郎

なし

半田 淳子

著書

『村上春樹、夏目漱石と出会う』若草書房、2007年4月、pp.3-278

その他の出版物

「知性というものは」『学芸国語国文学』40号、2008年3月、pp.14-17

研究発表

1. “How to use the ‘punctuation marks’ in written Japanese,” The 15th Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia, Australian National University, Canberra, July 3, 2007.
2. “Overseas Teaching Practicum in Japanese,” The 15th Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia, Australian National University, Canberra, July 4, 2007.

講演

「村上春樹と国語教育—『レキシントンの幽霊』を中心に—」
淑徳大学池袋キャンパス、2008年3月1日

岸本 恵実

研究発表

「原典を通して見た『羅葡日辞書』の翻訳」（単独）
第97回訓点語学会研究発表会（2007年10月14日於東京大学）

「キリシタン版『羅葡日辞書』の翻訳」（単独）
キリシタン学研究会例会（2007年10月27日於聖心女子大学）

「キリシタンの辞書編纂」（単独）
ICUアジア文化研究所第109回アジアフォーラム（2008年2月18日於ICU）

「キリシタンの棄教を表す『ころぶ（転ぶ）』という言葉について」（単独）
キリスト教史学会関西支部会（2008年3月8日於関西学院大学）

研究助成金

2006-2008年度 科学研究費補助金 若手研究(B)「キリシタン版羅葡日辞書の原典的研究」研究代表者

水田 洋子

なし

平田 泉

なし

小川 貴士

著書

1. 「主体的なコミュニケーションをどうクラスで実現させるか—文芸批評論コミュニケーション論との関連から—」『日本語教育のフロンティア：学習者主体と協働』くろしお出版、小川貴士編著、2007年10月、21-36頁。（第2章の執筆および全体編集を担当）
2. 2007年度ICU日本語教育センター紀要(2007.4-2008.3)
研究活動報告

尾崎 久美子

特別研究期間中

鈴木 庸子

研究論文

「韓国高校生のためのIS連想法によるひらがな指導の評価—ARCSモデルの観点から—」
『連想法による韓国語話者用ひらがな学習教材開発のための基礎的研究 平成17年度～18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書』（研究代表者カッケンブッシュ寛子）2007年3月、120-125頁

報告書

「リテラシー研究会」（教育研究所所報）『教育研究50』2008年3月（印刷中）

研究発表

1. 「ビデオ会議による日中会話—北京大学日本語コースとICU中国語コースの協同授業—」, CASTEL/J第4回国際会議 (CASTEL/J in Hawaii, 2007), 2007年8月, (Proceedings: CD-ROM version)
2. 「帰国生のための日本語教育—漢字教育から情報発信能力の養成へ—」第29回日本語教育方法研究会 2007年9月（広瀬正宜、小澤伊久美との共同研究、鈴木が発表）予稿集、6-7頁

その他

カンボジアスタディーツアー参加。ICUリテラシー研究会のメンバーとしてカンボジアスタディーツアーに参加し、青山日本語学校およびカンボジア日本人材センター（在プノンペン）の日本語教育を視察。

小澤 伊久美

著書

「第 7 章 学部初年次教育としての日本語教育に求められるもの―帰国生に対する教育実践から―」『日本語教育のフロンティア：学習者主体と協働』くろしお出版、小川貴士編、2007 年 10 月、133-160 頁。（第 7 章を分担執筆）

研究論文

1. 「PAC 分析におけるフェイスシートの開発に向けた課題―日本語教材と学習者のインタラクションの解明に向けた研究のために―」（丸山千歌との共同執筆）、『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』15、横浜国立大学留学生センター、14 頁（印刷中）。
2. 「コース・デザインにおける『時間的余裕』と『他者』の意義―ある上級日本語学習者へのインタビュー・データから―」『語学研究』Vol.22, ICU Division of Languages, English Language Program and Japanese Language Programs, 2007 年、15 頁（印刷中）。
3. 「日本語教育における PAC 分析の可能性と課題―読解教材を刺激とした留学生への実践研究から―」WEB 版『日本語教育実践フォーラム報告 WEB 版』（11 頁）
(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/kenkyu/Forumhoukoku/kk-Forumhoukoku.html>)

研究発表

1. 「PAC 分析データを基に実践研究を考える―読解教材を刺激とした留学生への質的調査から―」（丸山千歌との共同ワークショップ）2007 年度日本語教育学会実践フォーラム、於早稲田大学東伏見キャンパス、2007 年 8 月 5 日。（予稿集 141-144 頁）
2. 「帰国生のための日本語教育―漢字教育から情報発信能力の養成へ」（鈴木庸子・広瀬正宜との共同発表・口頭発表とポスター発表）日本語教育方法研究会、於京都外国語大学、2007 年 9 月 23 日。（予稿集 6-7 頁）
3. 「日本語教師のビリーフ調査への PAC 分析の活用について―先行研究とパイロット調査との比較から―」（坪根由香里との共同発表）PAC 分析学会第一回大会、於和光大学、2008 年 3 月 1 日。（抄録 21-24 頁）

研究助成金

1.2007.4～2007.12 科学研究費助成金（研究分担者）

平成 19～21 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）「PAC 分析法を活用した学習者が日本語教材から受ける影響と学習者要因の解明」（研究代表者：丸山千歌、課題番号：19520449）

2.2007.9-至現在 科学研究費助成金（研究代表者）

平成 19～22 年度科学研究費補助金（特別研究促進費）「オン・ゴーイング法と PAC 分析法の活用による日本語教師の実践的思考の解明」（課題番号：19529005）

金山 泰子

報告

二宮理佳・金山泰子「初級教科書に現われる『ええ』についての調査報告

—初級における応答表現指導についての一考察—

『ICU日本語教育研究』4. ICU日本語教育研究センター、2008年3月

黒川 美紀子

なし

佐藤 由紀子

なし

3. 教職員一覧

センター教員（教養学部と兼任）

日比谷潤子

広瀬 正宜 センター長及び2007年度夏期日本語教育ディレクター・文化プログラム
主任・『ICU日本語教育研究』編集委員長

根津真知子

佐藤 豊

中村 一郎

半田 淳子

岸本 恵実

水田 洋子

平田 泉

小川 貴士 2007年度夏期日本語教育教務主任・『ICU日本語教育研究』編集委員

尾崎久美子

鈴木 庸子

小澤伊久美

金山 泰子

黒川美紀子

佐藤由紀子

センター嘱託

小松 佳子 センター事務

朝倉 怜子